特42
879

復讐成田利生記上之巻

發端

東京　大西庄之助編輯

今ハ昔し伊勢の国山田の町に神職渡辺某と云へる御師あり人となり篤実にして慈悲の心深く貧民を憐みけるが此山田より程遠からぬ所の農夫吉人の男子ありて名を大八と呼びしが此児五才の秋の頃時疫流行して僅々一ヶ月の中に父母共に病死したるが元より親族なく村人の情けにて漸く養ひしが渡辺某ハ大八の孤児となりしを聞き彼は不便に思ひ我が方へ引取り養子となして▲育てけるが成長に随ひ力も強く大兵肥満にして人並ならず好智ありて生来によりて取扱ひのむつかしき程なるを八歳の頃より已に力量人に勝れて二十流しけるが大八既に十六才の年に於て武芸を好み修行に身を入れんと云ひ年に人の命を十余人も殺めて此家を脱して江戸を志し東海道を下り而して江戸へ出でしが▲ハ勝手を知らぬ身の連と成

次へ

上総の国の勧めに応じ同志と
彼地に到り演辺の地に住ぶ
日蓮聴きて大に感じ遠く
来力を尽く別懇の由去れば
仲右の者も恐れ居る程の大八
如何にして能き武芸

大八

ゆかつて業を学ばんと
思ひ男に能き法を尋ねる
国王流と云ふに根岸に弟子
云人剣術の達人なり教授の
門人と成る大に都に出
を望む何の幸福と
の門人にんうのと者に仲右の

根岸先生

根岸先生高弟
大地に立て
礼を
松一
伊勢の玉
農夫
細術
熱心に修業

若に成田根岸先生
弟子ありて演辺を通行せ
教授稽古する様子
一傍に立ち
大の男が若の
揚げ来る
力量この事に
大に感じ

服部次郎右衛門

一行に
頭巾が大八の
お武家に剣術の先生
指ひと共に

と称する四門人に
威勢と恐れ居れど
内の弟子
つたふき
奴供
伝兵
の内に
上を
ひとまとめにして

大工弥太郎

つぶて　投板を承引ふ西ひ

内弟子　女房お辰

小男　同様の右様式

大八と兄の如く

武蔵坊七郎

乃世が求女

こゝ敢高嶋

弱はて

酒に酔

庭番の所

の茶屋女

成へ人の

来るを

こゝぬ

風呂屋

大刀

筋をゝ〜へるに

元のゆきとて

あれいかづち三

年

ばかりはしておくらせいさゝ小熟〜

五百二十年迄も勉強あせ〜ばせうの

用縁を思ひされ次第おつの式後おを

つとゝは岩大八郎とあのかもつべら門弟

中もそんたうをなる

中村求女

物ふ小氏次郎右衛門の娘ふ中村求女

と云孝孝あり〜て父母を捨る私福天の

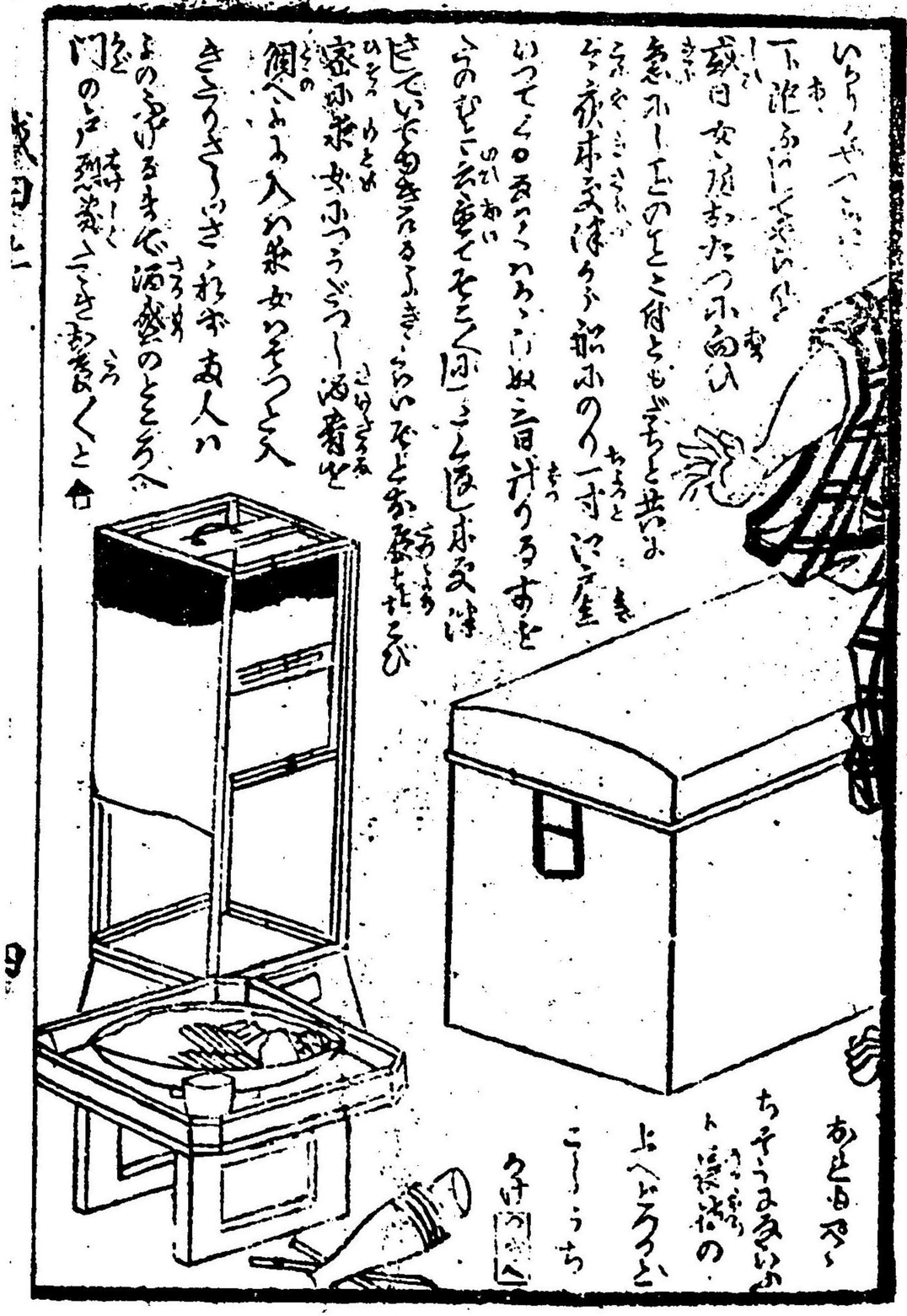
命のとゝくとゝ有りてあり〜しがあれいも

いる故大八

一もかりくいれ

出びる所へ

大工弥太郎
女房かろ



おさい川
佐藤大八郎

大工赤太郎

大八郎

大八郎

次郎右衛門

大八郎
●先江戸へ到らんと
奉書
厩川
飛坂
五十嵐
の力士を
つと

次郎右エ門
中村求女

大八郎

中村求文
大五郎

関八

明治十三年二月四日御届

編輯兼出版人　東京日本橋區松島町一番地　大西定之助

價三錢五厘

延
堂